

12章 片江^{ふうち}風致公園内文学碑群



12章 片江風致公園内文学碑群

【所在地】城南区南片江4丁目41番12号（片江風致公園）

【概要】片江風致公園（旧日本文学碑公園）に、多くの石碑が設置されている。碑の分類としては、大きく1.文学碑、2.記念碑（経済界・政界の人物などが漢詩格言を書いたもの）、3.その他の記念碑（「大相撲九州場所優勝記念碑」等）からなる。ここでは、上記のうち1.文学碑（計27点）を列記する（なお、現地での確認作業と写真撮影は、2012年11月12日に行った）。

① 釈 迢空（折口信夫）

【銘文】この冬も老いかゝまりてならの京たきゝの能を思ひつゝゐむ



② 若山牧水

【銘文】幾山河こえさりゆかば寂しさのはてなむ
国ぞけふも旅ゆく



③ 林芙美子

【銘文】花のいのちはみじかくて苦しきことのみ
多かりき



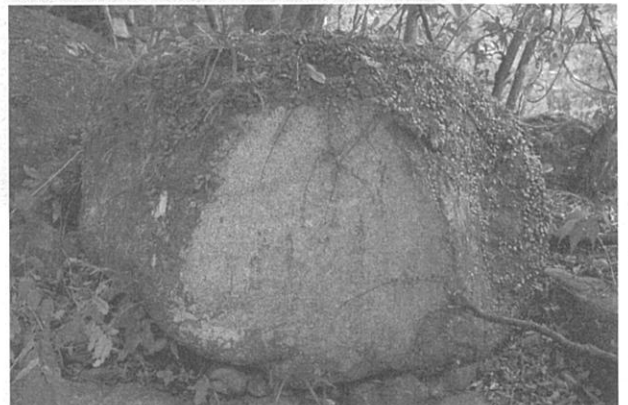
④ 佐々木信綱

【銘文】逝く秋のやまとの国の薬師寺の塔のうへ
なる一ひらの雲



⑤ 九條武子

【銘文】おほいなるものゝちからにひかれゆくわ
かあしあとのおほつかなしや



ながつかたかし
⑥長塚節

【銘文】うつそみの人のためにと菩提樹をこゝに
植ゑけむ人の尊とさ



よさのあきこ
⑦与謝野晶子

【銘文】やははたのあつき血潮にふれも見てさひ
しからすや道を説く君



あいづやいち
⑧會津八一

【銘文】かすかのにおしてつきのほからかにあ
きのゆふへとなりけるかも



まさおかしき
⑨正岡子規

【銘文】朝寒やたのもとひゞく内玄関



さいとうもち
⑩斎藤茂吉

【銘文】おのつから寂しくもあるかゆふぐれて雲
は大きく谿に沈みぬ



きたはらくしゅう
⑪北原白秋

【銘文】雨はふる／＼城ヶ嶋の磯に利休ねすみの
雨かふる



わかやまぼくすい
⑫若山牧水

【銘文】かたはらに秋くさの花かたるらくほろひ
しものはなつかしきかな



⑬「沙羅の木」

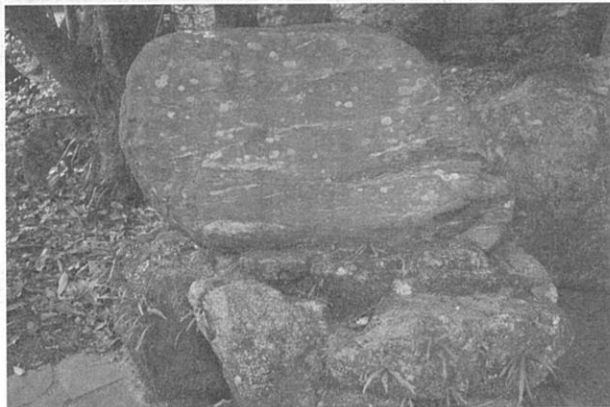
もり おうがい ながい か ふう
森 鷗外詩・永井荷風書

【銘文】

沙羅の木

褐色の根府川石に
白き花はたと落ちたり
阿里としも青葉かくれに
見えざりし さらの木の花

森林太郎先生詩
永井荷風書



おおたみずほ
⑭太田水穂

【銘文】命ひとつ露にまみれて野をそゆくはてな
きものを追ふことくにも



だざいおさむ
⑮太宰治

【銘文】富士には月見草がよく似合ふ



いしかわたくぼく
⑯石川啄木

【銘文】東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて
蟹とたはむる



よ き ぶ そん
⑰与謝蕪村

【銘文】不二ひとつ 埋みのこして 若葉かな



⑱ なつめ そう せき 夏目漱石

【銘文】仰臥人如睡 默然看大空 大空雲不動 終日杳相同



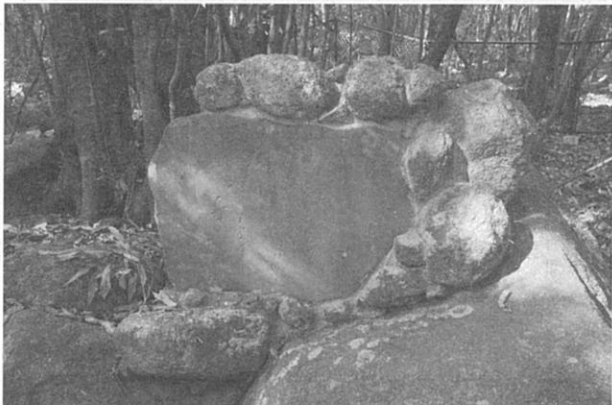
⑲ いしかわたく ぼく 石川啄木

【銘文】かにかくに渋谷村は恋しかり おもいで
の山おもいで川の



⑳ きたはら はくしゅう 北原白秋

【銘文】さひしさに秋成かふみよみさして庭に
いてたり白菊のはな



㉑ むかい きよらい 向井去来

【銘文】君が手も まじるなるべし 花薄 向
井去来



㉒ きのした りげん 木下利玄

【銘文】花ひらをひろけつかれしおとろへに牡丹
おもたく萼をはなるゝ



㉓ いとう さち お 伊藤左千夫

【銘文】信濃には八十の群山ありといへと女の神
山の蓼科われは 佐千夫



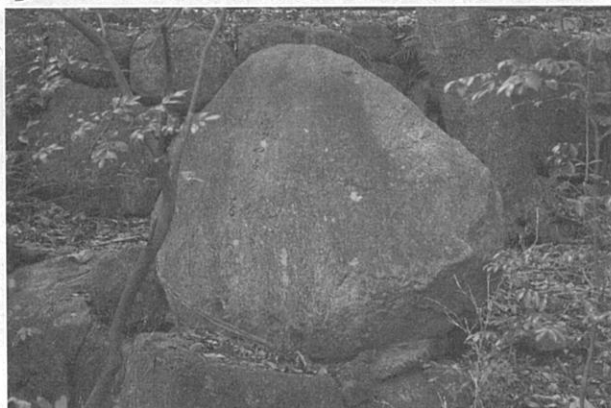
あぐたがわりゅうのすけ
②④芥川龍之介

【銘文】更けまさる火かけやこよひ雛の顔



まつお ばしょう
②⑤松尾芭蕉

【銘文】栈(カケハ)や命をからむ蔦(ツタ)かつら



いはらさいかく
②⑥井原西鶴

【銘文】香の風やあるじかしこしむめの花
難波松寿軒井原西鶴



よし いいさむ
②⑦吉井勇

【銘文】かにかくに祇園はこひし寐るときも枕の
したを水のなかるゝ

